

2020年3月期 決算説明会における主な質疑応答内容の要旨

この質疑応答集は、2020年5月13日（水）に行われたアナリスト・機関投資家向け決算説明会にて、ご参加の皆様から頂いた主なご質問をカテゴリー別にまとめたものです。理解促進のため一部内容の加筆修正を行っております。

【国内事業について】

Q：今期業績予想未定の理由を足元の状況を踏まえて教えてください。

A：新型コロナウイルス感染症拡大の影響面では、中食、加工食品は伸びており、外食産業のみマイナス影響を受けている状況。外食の小規模店舗の閉店や自粛が相次いでいますが、もともとその分野との取引は少なく、大口取引先のラーメンに特化した大型チェーン店などは、影響度の濃淡はありますが営業を続けています。コンビニなど中食はプラス傾向にあります。

Q：今期業績未定ですが、中食・加工食品が好調であれば、今期業績は悲観的になる必要はないのでしょうか。

A：当社顧客は新型コロナウイルス感染症拡大の影響が比較的少ないこと、中食では下期に向けて複数の大口案件があることから、現段階では悲観的には考えていません。しかし、コロナの収束が見えない現状では楽観視できませんので、慎重に見極める必要があります。

【海外事業について】

Q：海外事業について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を含め教えてください。

A：欧州は外食産業が少なく、加工食品メーカー（家庭用のスープなどの商品）が好調のため、今のところ大幅な影響は出ていません。中国は現時点での今後の予測は非常に難しく、2月、3月に大きな打撃を受けました、4月の中国の外食産業は4割程度回復してきていると聞いています。台湾は大きな影響はでていません。

【今期業績未定について】

Q：今期業績予想を未定とした背景を教えてください。

A：当社グループは多様なカテゴリーの商品を取り扱っているため不況に強い。例えば外食産業が不調でも加工食品、即席麺分野が好調であれば外食のマイナスを補うことができます。しかし、一番の懸念は、現時点では破綻した店舗や会社などのリアクションがはっきり見えない事。まだ5月、コロナの終息時期が未だ不透明であり、現時点で全体的な把握と合理的な判断が難しい。

Q：2021年3月期においても成長を目指して行くとの事ですが、この状況下でも利益成長は期待できるのでしょうか。

A：今の環境下では、当然売上が減るカテゴリーもありますが、中食分野や加工食品が不悪であること、下期の中食での大型案件や、フランス工場のスプレードライヤー設備の増設による販売体制の強化など、厳しい状況の中でも多くの案件や施策が進んでいることは事実で、まだまだ成長する余地があると考えています。

【その他】

Q：改めて配当と剰余金の使途について教えてください。

A：今期は新型コロナウイルス感染症拡大により先行きが不透明な中、事業の継続・成長のため、手元資金を厚くしておくことを優先する考えによるものです。手元キャッシュは、今後の成長投資のため、アフターコロナを見据えた投資戦略を見直し中です。

以上